



平成27年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年1月6日

上場取引所 東 名

上場会社名 スギホールディングス株式会社
コード番号 7649 URL <http://www.drug-sugi.co.jp/hd>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 樹田 直

問合せ先責任者 (役職名) 経営企画室長 (氏名) 笠井 真

TEL 0566-73-6308

四半期報告書提出予定日 平成27年1月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年2月期第3四半期の連結業績(平成26年3月1日～平成26年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年2月期第3四半期	286,655	4.8	15,880	1.7	17,138	△4.4	10,209	△2.7
26年2月期第3四半期	273,439	6.1	15,613	11.7	17,930	10.9	10,494	15.7

(注) 包括利益 27年2月期第3四半期 10,222百万円 (△2.7%) 26年2月期第3四半期 10,507百万円 (15.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年2月期第3四半期	161.25	—
26年2月期第3四半期	165.74	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年2月期第3四半期	210,056	122,245	58.2	1,930.73
26年2月期	182,272	114,809	63.0	1,813.29

(参考) 自己資本 27年2月期第3四半期 122,245百万円 26年2月期 114,809百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年2月期	—	16.00	—	24.00	40.00
27年2月期	—	20.00	—	—	—
27年2月期(予想)	—	—	—	20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年2月期の連結業績予想(平成26年3月1日～平成27年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	389,000	6.5	20,000	△0.5	21,000	△4.0	12,000	△6.4	189.53

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年2月期3Q	63,330,838 株	26年2月期	63,330,838 株
② 期末自己株式数	27年2月期3Q	15,412 株	26年2月期	15,209 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年2月期3Q	63,315,580 株	26年2月期3Q	63,316,120 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（平成26年3月1日～平成26年11月30日）におけるわが国経済は、金融政策や米国経済の好調を背景に外需企業を中心に企業業績が改善し、緩やかな回復基調が続きました。しかしながら、消費環境は、消費税増税の反動減が一巡を見せるものの、円安による原材料価格の上昇や天候不順などが影響し、個人消費の回復は足踏み状態にあります。

ドラッグストア業界は、異業種・異業態との同質化した熾烈な競争に加え、規模拡大に向けた出店競争の激化、更には、企業の統合・再編への動きも強まっております。

このような状況下、業界各社は差別化への取り組みを強めており、「既存店舗の改築・改装」、「新たな商品やサービスの導入拡大」、「調剤領域の強化」などに取り組んで来ております。

このような厳しい環境の中、当社グループは、従来にも増して、「地域密着、お客さま・患者さま起点による柔軟かつ俊敏な店舗運営」に努め、

- ① “いつまでも健康でいたい”、“もっと美しくなりたい”といったお客さまのニーズにより一層応えたテーマ訴求型の売場・商品展開
- ② 自社開発商品の評価基準の明確化およびお客さま・当社従業員の評価に基づく自社開発商品の改廃・品揃えの拡充
- ③ ビューティ部門の更なる強化のため、ビューティカテゴリー統括部の新設とビューティアドバイザーの職域・職能の拡大
- ④ 商販一体となった商品・販促計画の策定と、それに基づく具体的業務を店舗レベルでPLAN-DO-SEEサイクルを回すことによる運営体制の強化

等に取り組んでまいりました。

また、次代の成長基盤となる「経営のローコスト化」、「インフラ構築」に注力し、

- ⑤ 取引構造・形態および仕組み面からコスト・パフォーマンスをあらゆる分野で見直すことによる一層のローコスト化の推進
- ⑥ 基幹システムである「マーチャндаイジング・サイクル・システム」の稼働に続き、物流システム（ロジスティクス）の全面的見直し・再創出

等に取り組んでまいりました。

一方、好調に推移している調剤事業は、政府が掲げる「地域完結型の医療提供」、「後発医薬品の普及・促進」に対応すべく、在宅調剤の拡大に向けた取り組みの強化および後発医薬品のより一層の使用促進に努めてまいりました。

新規店舗開発につきましては、「収益力のある新店開発」のため、以前にも増して、営業と店舗開発の両部門がエリア戦略に基づくキメ細かな物件の評価・選定を行ってまいりました。

その結果、41店舗の新規出店、67店舗の中・大型改装、1店舗の業態転換、16店舗の閉店を実施し、当第3四半期末における店舗数は940店舗（前期末比25店舗増）となりました。

以上の結果、売上高は2,866億55百万円（前年同期比4.8%増、132億15百万円増）、売上総利益は784億19百万円（同3.7%増、27億78百万円増）、販売費及び一般管理費は625億38百万円（同4.2%増、25億10百万円増）、営業利益は158億80百万円（同1.7%増、2億67百万円増）、経常利益は171億38百万円（同4.4%減、7億91百万円減）、四半期純利益は102億9百万円（同2.7%減、2億84百万円減）となりました。

なお、第1四半期連結累計期間より、当社の事業セグメントは単一セグメントとなりましたので、セグメント別の記載は省略しております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

総資産は、現金及び預金、商品及び有価証券の増加等により、2,100億56百万円（前連結会計年度末に比べて277億83百万円増加）となりました。負債は、買掛金、賞与引当金等の増加等により、878億10百万円（同203億48百万円増加）となりました。純資産は、利益剰余金の増加等により、1,222億45百万円（同74億35万円増加）となり、自己資本比率は58.2%（前連結会計年度末比4.8%減）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年4月8日に公表いたしました連結業績予想の修正は行っていません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	44,504	59,864
売掛金	11,111	13,360
有価証券	17,605	22,222
商品	43,522	46,256
その他	8,433	8,585
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	125,175	150,286
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	23,360	23,992
その他(純額)	10,664	11,440
有形固定資産合計	34,024	35,432
無形固定資産	2,120	2,847
投資その他の資産		
差入保証金	15,409	15,685
その他	5,582	5,841
貸倒引当金	△40	△38
投資その他の資産合計	20,951	21,488
固定資産合計	57,096	59,769
資産合計	182,272	210,056

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	39,956	56,203
未払法人税等	3,525	2,522
賞与引当金	1,311	1,935
その他	14,769	18,846
流動負債合計	59,562	79,507
固定負債		
退職給付引当金	2,982	3,292
資産除去債務	3,040	3,152
その他	1,877	1,858
固定負債合計	7,900	8,303
負債合計	67,462	87,810
純資産の部		
株主資本		
資本金	15,434	15,434
資本剰余金	24,632	24,632
利益剰余金	74,743	82,166
自己株式	△39	△40
株主資本合計	114,770	122,193
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	38	51
その他の包括利益累計額合計	38	51
純資産合計	114,809	122,245
負債純資産合計	182,272	210,056

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年11月30日)
売上高	273,439	286,655
売上原価	197,799	208,236
売上総利益	75,640	78,419
販売費及び一般管理費	60,027	62,538
営業利益	15,613	15,880
営業外収益		
有価証券評価益	1,645	452
受取賃貸料	896	907
その他	720	843
営業外収益合計	3,263	2,202
営業外費用		
賃貸収入原価	713	722
その他	232	222
営業外費用合計	945	944
経常利益	17,930	17,138
特別損失		
減損損失	489	306
特別損失合計	489	306
税金等調整前四半期純利益	17,441	16,832
法人税、住民税及び事業税	6,362	7,648
法人税等調整額	584	△1,026
法人税等合計	6,947	6,622
少数株主損益調整前四半期純利益	10,494	10,209
四半期純利益	10,494	10,209

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	10,494	10,209
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	13	12
その他の包括利益合計	13	12
四半期包括利益	10,507	10,222
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	10,507	10,222

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成25年3月1日 至平成25年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ファーマシー 事業	ドラッグ 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	216,255	57,184	273,439	—	273,439
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	216,255	57,184	273,439	—	273,439
セグメント利益	14,415	2,040	16,455	△842	15,613

(注) 1. セグメント利益の調整額△842百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として店舗を基本単位とし、賃貸資産及び遊休資産については物件単位ごとにグルーピングしております。

営業活動から生ずる損益が継続してマイナスである資産グループについては、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額 489百万円を減損損失として特別損失に計上いたしました。

報告セグメントごとの計上額は、「ファーマシー事業」で 102百万円、「ドラッグ事業」で 287百万円となっております。また、報告セグメントに帰属しない賃貸資産において 99百万円計上しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成26年3月1日 至平成26年11月30日)

当社グループは「ドラッグ・調剤事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(報告セグメントの変更等に関する事項)

当社グループは、従来「ファーマシー事業」、「ドラッグ事業」の2事業を報告セグメントとしておりましたが、第1四半期連結累計期間より「ドラッグ・調剤事業」の単一セグメントに変更しております。

当社グループは、エリア戦略強化による「商圏内市場シェア拡大」のため、「ファーマシー事業」及び「ドラッグ事業」における店舗の「再編・整備の加速」及び「経営のローコスト化」を目的に、スギ薬局事業部とジャパン事業部を統合いたしました。

このような状況を踏まえ、当社グループの事業展開、経営資源の配分、経営管理体制の実態等の観点から事業セグメントについて再考した結果、当社グループの事業を一体として捉えることが合理的であり、事業セグメントは単一セグメントが適切であると判断したことによるものであります。

この変更により、「ドラッグ・調剤事業」の単一セグメントとなることから、当第3四半期連結累計期間のセグメント記載を省略しております。